

新設橋梁の景観に対する意識の相違に関する研究

宇都宮大学 学生会員 ○對間 昌宏
宇都宮大学 正会員 阪田 和哉

1. はじめに

大規模な土木構造物や建築物などは、建設当初は地元住民らの批判が大きかったが、年月を経るにつれ受け入れられていく例が少なくない。土木構造物の中でも橋は、その大きさや寿命の長さから地域の重要なランドマークとなり、また地域を象徴するものとなりうる¹⁾。

近年の景観まちづくりは、市民参加が進み、周囲と調和した景観づくりが積極的に行われるようになった。しかし、現在、重要な観光資源として評価されているものの中には、建設当初から市民が高く評価してきたものだけでなく、パリのエッフェル塔などのように強い批判をあげていた例がある²⁾。これからの人口減少社会では自治体の税収が縮小する恐れがあるため、観光振興行い、行政サービスの財源とする必要がある³⁾。そのため、市民だけで景観づくりをしていくのではなく、外部からも評価される景観づくりが必要であると考えられる。

このような問題意識の下、比較的新しく竣工された橋を対象として、地域住民と来訪者の構造物に対する意識の相違や個人の橋に対する接触頻度別の橋に対する意識の相違などを分析し、人々の橋に対する評価構造を捉え、橋などの土木構造物の外観の決定方法や合意形成の在り方を検討する。

2. 調査方法

対象構造物は築地大橋で、東京都中央区の築地と月島の間に流れる隅田川に架かっている。2014年5月にアーチ部分が架設された。しかし、まだ道路として供用されておらず、2016年度を予定している。

アンケートを作成し、調査地で配布し後に郵送回収する方法をとった。表-1 にアンケート内容を示す。

調査地は、同じく隅田川にかかる勝鬨橋である。

この場所を選定した理由として築地大橋が良く見え、視点場として重要だと考えられたことがあげられる。

調査日時は2014年12月6日（土曜日）。配布数185票、回収数135票（回収率約73%）となった。

表-1 アンケート内容

設問	内容
1	性別
2	年齢
3	住所、通勤学先の位置 生活している年数
4	築地大橋の建設に関する情報を持っていたか
5	調査地点から築地大橋を見る頻度
6	過去一年間で橋周辺の景観を見てきた回数
橋について(写真を提示)	
設問	内容
7	橋が周囲となじんでいるか なじんでいる← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →違和感がある
8	橋の建設に賛成しているか 賛成← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →反対
9	この橋のデザインは良いと感じるか？ 良い← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →悪い
10	この橋が好きか 好き← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →嫌い
11	この橋のデザインは個性的か 個性的← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →どこにでもある
12	この橋のデザインは落ち着いたか 落ち着いた← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →派手
13	この橋のデザインは現代的か 現代的← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →伝統的
橋とその周辺の景観について(写真を提示)	
設問	内容
14	この景観はきれいだと思うか きれい← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →きたない
15	この景観が好きか 好き← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →嫌い
16	この景観は個性的か 個性的← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →どこにでもある
17	この景観は落ち着いたか 落ち着いた← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →派手
18	この景観は現代的か 現代的← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →伝統的
19	築地大橋ができる前(2014年5月8日以前)の景観をよく思い出せるか よく思い出せる← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →よく思い出せない ☐ 知らない
地域について(調査実施地点から半径1km)	
設問	内容
20	この地域はきれいだと感じるか きれい← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →きたない
21	この地域が好きか 好き← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →嫌い
22	この地域は個性的か 個性的← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →どこにでもある
23	この地域は落ち着いた雰囲気か 落ち着いた← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →派手
24	この地域は現代的か 現代的← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →伝統的
25	この地域によく来るか よく来る← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →ほとんど来ない
26	この地域は活気があると感じるか 活気がある← ☐ 5 ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 →元気がない

キーワード：橋梁デザイン、景観づくり、合意形成、単純接触効果

〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7-1-2 宇都宮大学 Tel.028-689-6220 Fax.028-689-6220

3. 準備

単純接触効果とは、ある対象に反復して接触することで、その対象に対する好感度が増す現象である(Zajonc, 1968)。これは年齢に関係なくおき、これまで人物写真、幾何学図形、文字など様々なもので確認されている⁴⁾。国内では、単純接触効果を考慮して、アニメの舞台となった地域への観光の促進⁵⁾や広告による購買意欲に関する研究⁶⁾もおこなわれている。これらの知見と同様に、橋の外観に関しても効果が発揮されることが考えられる。

橋梁デザインの評価構造に関してはCGを用いた松井ら⁷⁾の研究があるが、本稿では実際に存在する橋を対象に感性評価を行った。

4. 結果と結論

橋への接触頻度により、橋に対する好感度や印象に相違が見られなかった。このことから、建設から7か月程度で差異はなくなる可能性がある。そのため、単純接触効果による人々の橋に対する評価の変化を捉えるためには、同一の被験者に継続的に複数回調査したパネルデータが必要であると考えられる。

また、生活している場所(表-2)や年代別(表-3)、建設に対する賛否(表-4)などによって、橋のデザインに対する印象に相違が見られた。橋の外観の検討方法として地域住民だけでなく地域外の人を含めた多様な主体がデザインの決定に関わることが意見の偏りを防ぎ、より良いデザインを生み出す可能性がある。地元住民だけでなく観光客にも支持されるデザインを検討する上で、印象の相違に配慮した仕組みが必要だと考えられる。

さらに、調査結果より、橋への愛着や好感度を高めるためには、事前の建設に関する周知や集会などへの参加が有効(表-5)であると考えられるため、橋梁の好感度向上のためには実施するのが望ましい。

5. 課題、展望

課題として、橋、景観、地域に対する印象を調査する項目問10、11、12、13などでは解答欄「5」に近いものほど、前後の質問の影響もあり、良い印象を与える結果になってしまった可能性があることは、バイアスを排除する工夫が必要であった。

今後の展望として、次の3点が考えられる。①橋が新しく架設された時点から、継続的に人々の評価を調査、比較することで評価の変化を捉えること。

②今回の調査結果と、建設から長く時間が経ち十分に地域に愛されている橋との評価を比較すること。

③有意水準10%を満たしたものなどに

関しては、さらに標本数を多くし調査すること。

景観の形成と心理学や神経科学分野を結びつけて考えることは多くの示唆を与えることが期待される。



也大橋

表-2 生活する場所による印象の相違

問3 調査対象者が生活している地域	問9 橋のデザインは良いと感じるか	問20 地域はきれいだと感じるか
調査地から徒歩圏内に住む、または通勤している	平均3.50	平均3.93
上記以外	平均3.86	平均3.60
t検定のp値		0.067 0.086

表-3 年齢による印象の相違

問2 年齢	問11 橋は個性的か
20代、30代	平均2.09
40代、50代	平均2.58
t検定のp値	0.003
問2 年齢	問13 橋は現代的か
40代、50代	平均3.25
60代、70代	平均2.86
t検定のp値	0.052

表-4 建設の賛否による印象の相違

問8 橋の建設への賛否	問11 橋は個性的か	問13 橋は現代的か
建設に賛成	平均2.65	平均3.15
建設に反対	平均1.62	平均2.25
t検定のp値	0.005	0.003

表-5 建設情報の有無による好感度の相違

問8 調査地から徒歩圏内で生活している人のうち、橋の建設に関して知っていたか	問9 橋の建設に賛成しているか	問10 橋が好きか
知っていた	平均4.38	平均3.46
知らなかった	平均3.5	平均2.85
t検定のp値	0.006	0.029

参考文献

- 1) 篠原修編：景観用語辞典，pp272-279，彰国社，2008。
- 2) 倉田保雄：エッフェル塔ものがたり，pp43-46，岩波書店，1983。
- 3) 西村幸夫：観光まちづくり，pp9-28，学芸出版社，2010。
- 4) 生駒忍：潜在記憶現象としての単純接触効果，認知心理学研究 第3巻第1号，pp113-131，2005。
- 5) 嘉幡貴至：アニメ聖地巡礼の生起要因についての一考察，CATS 叢書 Vol.1「メディアコンテンツとツーリズム」2009。
- 6) 楠見孝・松田憲・杉森絵里子：広告と消費者心理－単純接触効果による安心感とノスタルジア，The Japanese Journal of Psychonomic Science, Vol28, No.1, pp142-146, 2009
- 7) 松井哲平・佐々木葉：新機能主義橋梁デザインの評価構造に関する基礎的研究，土木学会論文集 D1, Vol.68, No.1, 1-12, 2012。